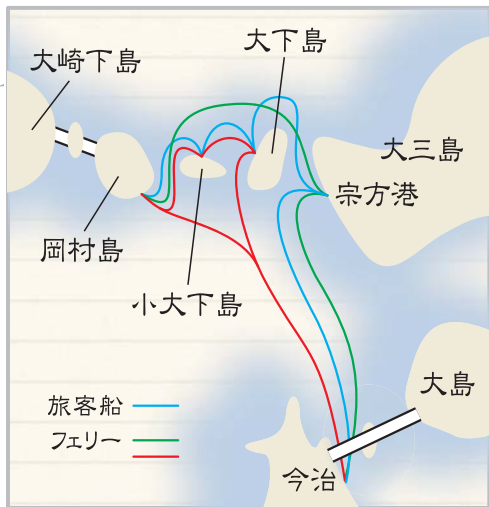


いまばり探求 関前 せきぜん

とびしま海道としまなみ海道の交差点「関前地域」は、岡村島・小大下島・大下島の3つの有人島からなります。今回は、かつて石灰石の採掘で賑わった小大下島の産業遺産に光を当てたいと思います。



①カネ源水源地 ※海底送水管で岡村島へ送る
石灰岩の採石場跡にできた水源地で、名称は鉦山経営者の屋号。同鉦山は小大下鉦山と呼ばれ、昭和7年に大阪窯業セメント(株)が機械設備を導入後に採掘量が増えるも、同48年に閉山。



②石灰石貯蔵タンク ※高さ約15m
本村上鉦山の岸壁に設置された石灰石貯蔵タンク(2,300t収納)。昭和9年に日東セメント(株)が設置するも、同16年に同鉦山は浅野セメント(株)の傘下となる。昭和52年に閉山。



③山神社 ※水桶を両肩に担ぐ、高下駄を履いた石灰職人石灰鉦山の繁栄を願い、大山積神を祀る。拜殿の梁には、石灰製造を行う職人の姿がかたどられている。石鳥居は、大正5年に大阪窯業(株)の現地支配人が寄進したもの。

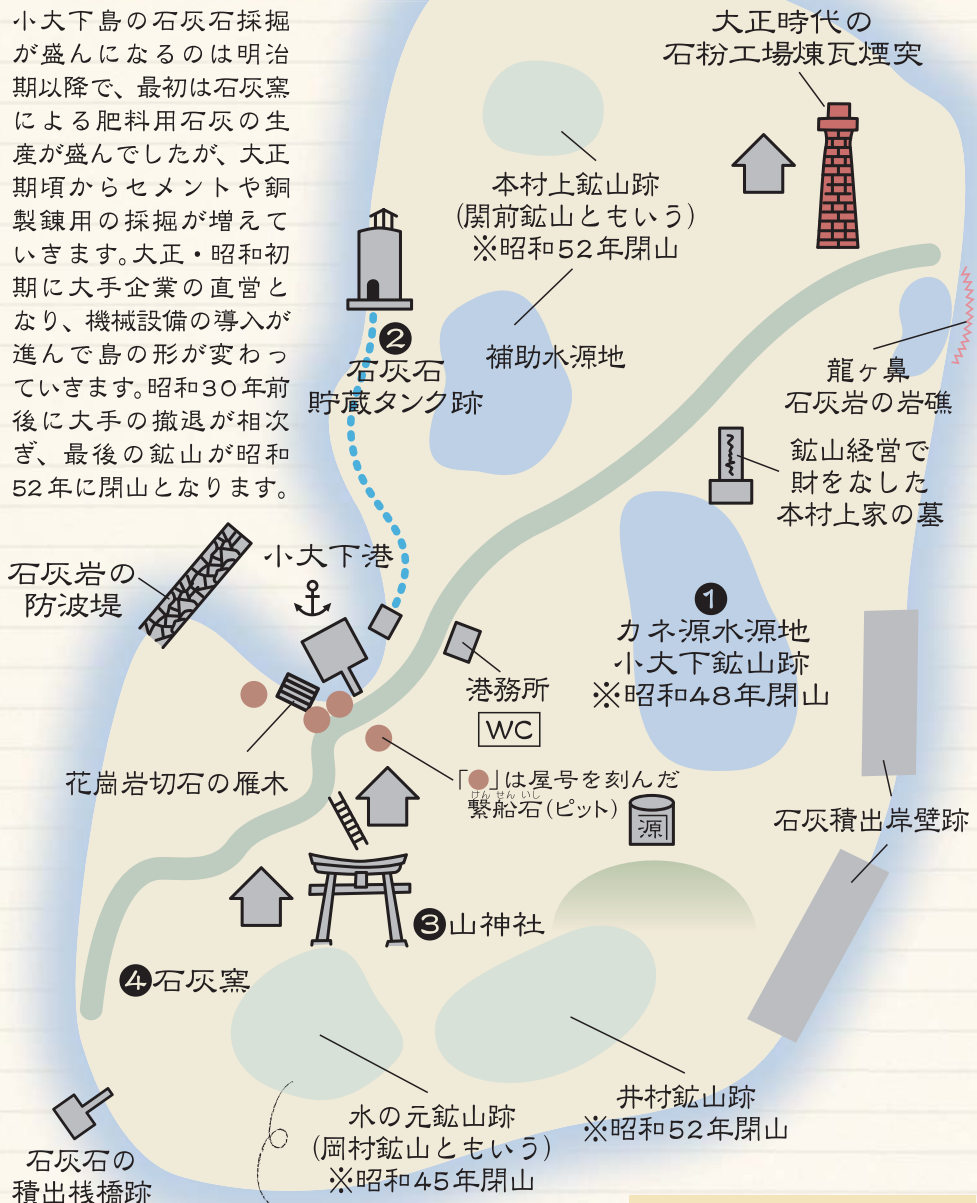


④石灰窯 ※幅約10m、高さ約5m
肥料用石灰を焼成するための窯で、焚き口は2つあり、内部は徳利状の耐火煉瓦構造をしている。大正～昭和初期の築造か。こうした窯跡が、島内にはまだ数基残っている。

こおび 小大下島

★島の大きさ…周囲約3.4km
面積約0.9km²

小大下島の石灰石採掘が盛んになるのは明治期以降で、最初は石灰窯による肥料用石灰の生産が盛んでしたが、大正期頃からセメントや銅製錬用の採掘が増えていきます。大正・昭和初期に大手企業の直営となり、機械設備の導入が進んで島の形が変わっていきます。昭和30年前後に大手の撤退が相次ぎ、最後の鉦山が昭和52年に閉山となります。



大正6年に住友別子鉦業所の直営となり、採れた石灰石は四阪島製錬所へ送られた

関前情報
ホームページ「きないや せきぜん」
<http://sekizenweb.com/>